

医療法人済恵会 広報誌

オアシス57号

院長
須藤 英仁

明けましておめでとうございます。皆さんにおかれましてはお変わりなく新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。当法人でも新病院開院後1年半が経過しどうやら落ち着いて診療に従事できるようになってまいりました。しかしながらまだまだ多くの問題を抱えております。その一つとして事業所が大きく2か所となったため法人内の連絡が不十分なところもあります。先日このようなことがありました。老人保健施設めぐみは1床空いておりつぎに病院から移動する患者さんも決まっていたのですが、その日は忙しくて移動できませんでした。しかしその日急変の患者さんが多数入院したため、最後の患者さんは入院できず高崎の病院に入院せざるを得なくなりました。めぐみや当院をよく利用して頂いているかかりつけの患者さんでした。もしめぐみへ当日移っていただければ最後の患者さんも収容できたのにと残念でたまりませんでした。忙しいといっても100人以上の職員が一日働いているのです。院長含め誰が移動の手伝いをしたってよいのです。

努力が足りないと思いました。今年はこのようなことのないように職員一同目標を一つにして頑張っていきたいと思っております。

こんな時もっとも威力を発揮するのはITです。つまり情報の共有ということについてはIT化なくては語れません。さきほどの病院の空きベッドの情報などはもっとも基本的なことですが、実際の診療でも非常に役に立ちます。たとえばある患者さんが脳梗塞で入院し、すこし右半身が不自由になったがリハビリで大分軽快した、しかし家に帰るにはもうすこしリハビリを行い少しでも動けるようになりたい。こんな希望の患者さんは大勢いらっしゃいます。こんなとき病院で行った治療内容が、碓氷川を隔てた老健施設めぐみのコンピューターの画面上ですべてがわかり入所後の介護やリハビリが途切れることなくすぐに実行されるのが非常に重要と思えるのです。個人情報保護に気をつけながらより一層の情報の共有が図れるシステムを作っていきたいと思っております。老人保健施設めぐみでは12月より20床増床が許可され現在工事中です。80名の収容人数となりますのでより一層入所者の状態の把握が必要となります。家族の方も何か気がつきましたら遠慮なく申しただきたいと思っております。家族の方とめぐみ職員の情報の共有もまた非常に重要と考えるからです。今後ともぜひご協力お願いいたします。



広報誌オアシス 制作 広報委員会
〒379-0116 群馬県安中市安中3532-5 Tel (027)382-3131 FAX (027) 382-6568

今の日本は不況感、閉塞感に覆われています。この原因は将来の生活の安心感が得られていないことも原因と思います。つまり老後の心配。病気の心配などが先行してしまうため思い切った行動に移せない状況と思うのです。社会保障をしっかりとすることにより国民が安心して生活できる社会を作らなければいけないと思います。当法人では幸いなことに一般病床、回復期病床、療養病床、老人保健施設めぐみ、別法人ではケアハウス

ジョリエやなせなども運営しております。ほかにも特別養護老人ホームのどの荘、セラヴィにも配置医師を派遣しております。当法人の施設をフル回転し、また地域の医療機関の先生方や他の介護施設との連携を深め地域の方々が安心して生活できるような体制を構築していきたいと思っております。今年もご支援よろしくおねがいたします。

院長 須藤英仁

栄養課通信



管理栄養士

半田 薫子・栗原 ゆかり

新春とはいえ寒い日が続きますが、みなさんいかがお過ごしでしょうか？

当院栄養課では、患者様やそのご家族に対する食事相談、また入院中の患者様に対して各疾病に応じた治療食の提供を行っております。

今後も患者様の嗜好に合ったおいしく楽しい食事の提供を目指していきたいと考えておりますので、アドバイス等ございましたら、ご意見箱へぜひお願いします。ちなみに、おすすめレシピも募集中です！

ご案内

外来患者様とはあまりかかわりが無いと思われがちな栄養課ですが、当院では、各疾病に応じた栄養相談を下記のような時間帯に行っております。ご希望の方はお気軽に主治医までお申し出ください。

個別相談

月曜日～土曜日

午前10：00～12：30

午後15：00～17：30

※年末、年始、祝祭日を除く

なお、栄養相談を受けられますと、各保険の自己負担に応じた料金がかかります。ご了承ください。



乳がん検診を受けよう



名誉院長
乳腺甲状腺科

石田 常博

日本人のがん（悪性新生物）による死亡数は年間342,849人（2008年）で、3人に1人はがんで亡くなり、2人に1人はがんに罹るとされる。女性のがんの中では乳がんが最も多く、年間4万数千人が罹る推計される。また乳がんの死亡数は年間11,323人（2007年）であり、全年齢で第5番目ですが、30歳～64歳までは死亡率第1位であり、いまだ増加している。一方乳がん死亡率の高かった欧米では10年以上前から死亡率は減少しており、その要因はマンモグラフィ検診の普及と受診率が70～80%と高く、早期乳がんの発見率が向上したことによります。日本では2000年から視触診＋マンモグラフィ検診が行われ、各市町村で40歳以上の女性に2年毎に行われていますが、検診受診率は群馬県全体で25%と低いのです。がん撲滅、がんによる死亡率減少のために「がん対策基本法」が施行され、各県は「がん対策推進基本計画」を作成し、死亡率の20%減少を目標に、検診受診率を50%までに高めることを指導しています。政府はがん検診の補助交付金を増し、今年から40歳～60歳の5歳毎の節目の女

性に無料検診クーポン券を配布して受診率向上を推進しています。安中市乳がん検診も施設検診と集団検診（健康づくり財団、バス検診）が行われ、当院も施設検診と二次精密検診を行っています。また企業で行う職場検診や人間ドックを受けている方もおります。今年はクーポン券持参の方も多く受診され、昨年度より受診率は増し、乳腺外来も混雑しておりますが、早期乳がんも発見されていきます。乳がんは早期に見つければ治る割合が高く、マンモグラフィ検診は「しこり」として触れないような早期がんを見つけることができます。しかし、30歳、40歳代の乳腺が発達している人はマンモグラフィで映りにくいことがあり、超音波検査（エコー）を加えることが勧められます。乳がん検診を多くの人が受ければ、乳がん死亡率は確実に減少してきます。乳がんの罹患率・死亡率の高い40～50歳代は子育てや家庭的、社会的にも大事な階層であり、乳がんで死なないために乳がん検診を受けましょう。35歳以上の未婚者、家族に乳がんの方がいる人、良性の乳腺疾患のある人は毎年の検診が勧められます。また、乳房自己検診も大切で、毎月自分で乳房を触ってみて異常を感じたら、すぐに乳腺外来を受診して下さい。大切な乳房と命を失わないために乳がん検診を受けよう。

平成22年 新年を迎えて



看護部 部長

藤原美津子

新年あけましておめでとうございます。平成21年は皆様に支えていただき、未熟ながらもこれまでやっていく事ができました。新年を迎え、今年の看護部の課題を考えてみました。須藤病院は地域の人々に支えられ、これまで歩んでまいりましたが、今後も地域とともに健康で明るい社会を目指しています。

医療が日々進歩する中で、須藤病院職員も日々努力をしていますが、看護の課題は看護の質を更に向上させることです。表現できない患者様の声を聴き、看護の専門性を磨き、患者様に安心・安楽を提供することです。現実には手術を受ける患者様の不安、死を恐れる恐怖にじっと耐える患者様のいらっしゃる一方で、認知症で現実認知が難しい患者様と行動することに伴い、看護師が不十分さを感じるジレンマ等があります。患者様の声を十分聴けない看護師も互いに磨きあっていく必要があります。

ウィリアム・オスラーは「医療とは、ただの手仕事ではなく技術である。商売ではなく天職である。すなわち頭と心を等しく働かせねばならない天職である」と述べています。日々実践の伴う勉学を積み、感性を磨き、患者様の苦痛や喜びを感じることで。私たちは常に患者様の評

価から学びます。それには、表現の方法に関わらず、患者様の表す評価に敏感にそして真摯に取り組むことが求められていると感じています。

看護師には医療を含む看護専門職としての知識・技術・態度が求められます。同時に人間性豊かな教養が必須と言えます。ナイチンゲールが看護学生に向けた書簡集のなかで良く述べることがあります。「優れた看護師は優れた女性で無ければならない」。また、「患者の症状の経過に対する強い関心を持つこと、そして管理する楽しみを感じること」です。管理する楽しみとは患者様に最も良い環境を整えること、全体に秩序を保つこと、物をきちんと片付けること、時間を厳守すること、受け持ち患者の状態を把握し医師や上司に精確に報告すること等々です。

当院は准看護学生、高看護学生が働きながら学んでもいます。看護の質を上げるには現任教育の多様性と質の充実が必須のことと考えます。

オスラーは「何を教えるかより、どの様に教えるかを悩む」と表現しています。新人や看護師に期待することは山ほど有るが、このことの意味することを熟慮し、精選し工夫が試されるときと受け止めます。安易な評価をせず、職員が安心して働ける環境を作る努力と同時に、その人のもつ力をしっかり感じ取り引き出す力を磨く努力を重ねる所存です。

今年も皆様のご指導を頂きながら励むつもりでおりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

～老健めぐみの新年のごあいさつ～

**支援相談員
古島 隆矢**



昨年大変お世話になりました。今年も宜しくお願い致します。私自身、昨年10月よりめぐみの支援相談員となり、めぐみの利用者様やご家族の皆様とお会いさせていただく機会が多くなってきましたが、初めての方には自己紹介も兼ねてご挨拶とさせていただければと思います。11月のオアシスでもご案内させていただいた通り、現在、めぐみは入所施設の増床の為に、施設内の工事をさせていただいております。利用者様、及びご家族の皆様にはご迷惑をおかけしながらも、ご協力をいただきまして、本当にありがとうございます。

工事に関してですが、全て完了するのが2月下旬を予定しております。その間にご迷惑をおかけする事が多いかと思いますが、事前にご報告を行ってまいりますので、引き続き、ご理解とご協力の方を宜しくお願い致します。

今後、めぐみが増床する事によって、より多くの方に利用していただき、サービス内容も現在より充実出来るように取り組んでいく事で地域の皆様方が安心して住みなれた場所で生活でき、必要な介護サービスが受けられるよう、地域に根ざした施設づくりを目指して行きたいと考えております。

また、今後は長期に施設入所されている方でも住み慣れた家に外出や外泊が出来るよう、ご家族へのお手伝いやご相談をさせていただける体

制を整えていこうと考えております。介護の相談や皆様のご意見などありましたら、お気軽にご連絡下さい。今年も老人保健施設めぐみを宜しくお願い致します。



12月8日毎年恒例の新島学園の聖歌隊が来所して下さい、入所者の方々との交流を行いました。



職員手作りのめぐみ神社にて初詣を行いました。



1月	初詣、どんど焼き
2月	節分、バレンタイン
3月	ひな祭り、ひな市、梅林見学
4月	お花見
5月	端午の節句、外出レク
6月	職員による出し物
7月	七夕、スイカ割り
8月	納涼祭
9月	敬老会
10月	運動会
11月	文化祭
12月	クリスマス会、餅つき

その他
手作りおやつ、誕生会、ボランティア様による詩吟や、大正琴、アコーディオンの慰問など毎月予定しております。
※予定は変更になる事があります。ご了承下さい。

新年のご挨拶



事務長

林 謙一

明けましておめでとうございます。本年もよろしくおねがいます。昨年10月より事務長として、皆様のご協力の下頑張らせて頂いております。昨年の3ヶ月間は、あっという間に過ぎてしまいました。まだ暫くの間、ご迷惑をおかけすることもあると思いますがこれからもご協力をお願い致します。さて、平成22年を迎え、老人保健施設めぐみの20床増床が目前となりました。現在工事中ですが、工事終了後には明るく使

いやすい施設が提供できると思います。入所または短期入所で、だいぶお待ちを頂いておりましたが少し改善できると思います。また少々手狭だった食堂等も、ゆったりと利用できるようになると思います。病院、診療所におきましては、診療報酬が10年ぶりにプラス改定されることが昨年末に報道されました。どのように改定されるかは分かりませんが、ずっと続けてきたマイナス改定にストップがかかりました。最近では暗い話題が多いようですが、すこしでも明るい毎日が送れるよう努力していきたいと思います。平成22年、今年は忙しい時こそ、私たちの約束のなかにうたっているように「笑顔で親切な対応」ができるよう心掛けていきたいと思います。

医療法人清恵会 私たちの約束

私たちは、笑顔で親切な対応を約束します。

私たちは、安全確認をします。

私たちは、診断、治療に全力を尽くします。

私たちは、つねに進歩します。

私たちは、患者様、地域の皆様、従業員の仲間たち全ての方が幸せになることを目指します。



病院裏に大型駐車場があります。側道はスピードを控えて進み、そちらにご駐車下さい。

玄関前の優先駐車場は一般の方はご遠慮下さい。

日曜・祭日の病院出入口は、正面玄関のみとなりました。夜間通用口はご利用頂けませんので、ご協力お願い致します。